

# 回答用スコアリングシートにおける頑強性(立地・建物) の設問に関する簡易解説資料

# 回答用スコアリングシート問5,6と記入方法について

| 頑強性（立地・建物）  |   | ※外水・内水氾濫のリスクが「ない」場合（問1①及び問4①のいずれも「いいえ」の場合）は回答不要 |  |
|---|---|---|--|
| 問5 頑強性（立地）問2及び問4の浸水位と建物各部の高さを比較し、外水・内水の建物内への流入の可能性を確認します。 |   |   |  |
| ①   | 竣工図等において、建物敷地の基準点（GL=±0.00m）の標高（T.P.）は何mですか。<br>（※竣工図等で確認できない場合は、入力手引書の方法により算定した高さを記載してください。） |   |  |
| ②   | 外部から建物内への水の侵入経路の高さ（問5①の高さと最も低い建物開口部の下端高さの差）は何mですか。<br>（※問5①の高さより下に開口部がある場合は、マイナス表記にしてください。）   |   |  |

3～5ページのA・B参照

| 頑強性（立地・建物）             |   | ※外水・内水氾濫のリスクが「ない」場合（問1①及び問4①のいずれも「いいえ」の場合）は回答不要 |  |
|------------------------|---|---|--|
| 問6 立地及び建物の水防に関して確認します。 |   |   |  |
| ①                      | 水防ラインを構築していますか。   |   |  |
| ②                      | 水防ラインの高さは何mですか。<br>※右のいずれかの高さをご記入ください<br>※両方記入した場合は、標高（T.P.）にて評価します。  | 標高（T.P.）を記入 →                                   |  |
|                        |   | 問5②“開口部最下端”からの高さを記入 →                           |  |
| ③                      | 水防ラインに防水板を使用している場合、防水板の高さは1.00m以下ですか。   |   |  |
| ④                      | 水防ラインに土嚢又は水嚢を使用している場合、土嚢又は水嚢の高さは0.45m以下ですか。   |   |  |
| ⑤                      | 水防ラインに防水板や、土嚢、水嚢等を使用するが、その高さが回答欄の選択肢を超える（問6③又は④の回答が「いいえ」）場合、性能書や組み方の仕様書の添付により安全性を説明できますか。<br>（※「はい」の場合は、エビデンス資料として性能書等を添付してください。） |   |  |
| ⑥                      | 水防ラインの構築に関して、どのくらいの時間を要しますか。  |   |  |
| ⑦                      | 水防ラインの構築に関して、年1回以上の動作確認又は設置訓練を行っていますか。  |   |  |

5ページのB参照

# A: 建物の高さ基準点とその標高の確認及び図示方法(1/2)

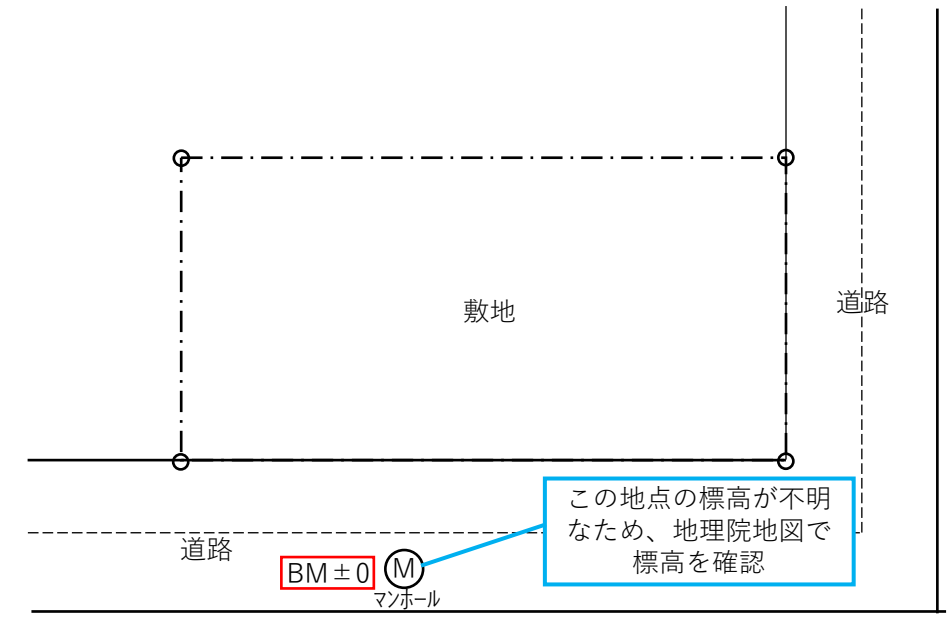
## (1) 配置図・平面図にベンチマークの記載があるが、標高(T.P.)の記載がない場合

### 問5の①の建物敷地の基準点とその標高(右図を参照)

- ✓ 建物のグランドレベル(図面表記例: GL、設計GL、SGL、平均GL)を基準点とする。
- ✓ グランドレベルには、ベンチマーク(図面表記例: BM、KBM、TBM)からの高さが付記されているため、地理院地図からベンチマークの標高を確認する。
  - ベンチマークは、周辺道路、既存杭、電柱、側溝、マンホールに記載されている。

### 問5の②の外部からの建物内への水の侵入経路の高さ

- ✓ 外部から浸水ルートを推測し、最も浸水の恐れがある床レベルを高さを図面から読取る。
  - 図面に表記がない場合は、開口部の最下端の高さ、1階スラブレベル(図面表記: 1SL)、1階床レベル(図面表記: 1FL)を高さとする。



設計GL=BM+80

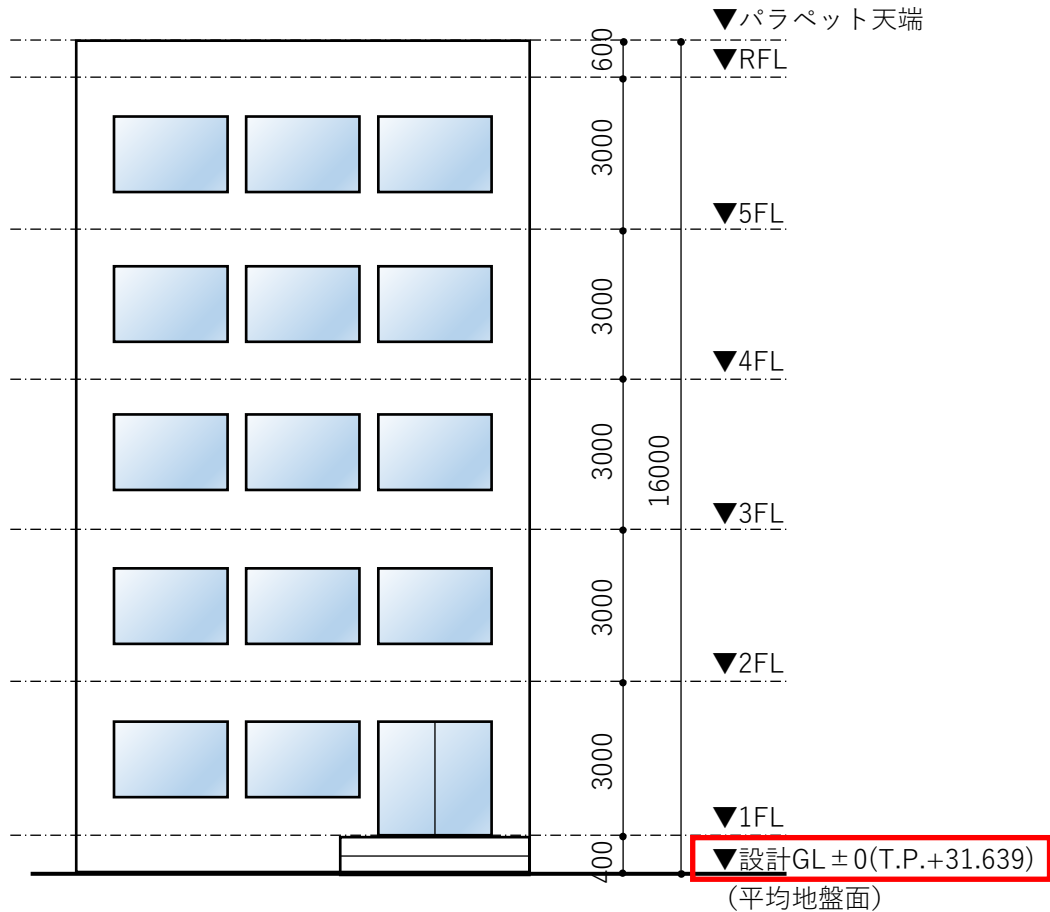
BMの位置標高を地理院地図よりT.P.5.50mと推定。  
設計GL=BM+80mmのため、  
高さ基準点を設計GL=T.P.5.50m+0.08m=T.P.5.58mとする。

↓  
問5①に記入  
(小数点第三位以下切り捨て)

※赤字を図面に記入し提出

# A: 建物の高さ基準点とその標高の確認及び図示方法(2/2)

(2) 立面図・断面図等に標高(T.P.)が記載されている場合



上記より、高さ基準点をGL=T.P.+31.63とする。

※赤字と赤枠を図面に図示し提出

問5①に記入  
(小数点第三位以下切り捨て)

(3) 竣工図に標高(T.P.)の記載がない場合



⇒ バンチマーク(BM等)の標高を「地理院地図(国土地理院)」で検索

③T.P.(標高)を読み取り、問5①に記入

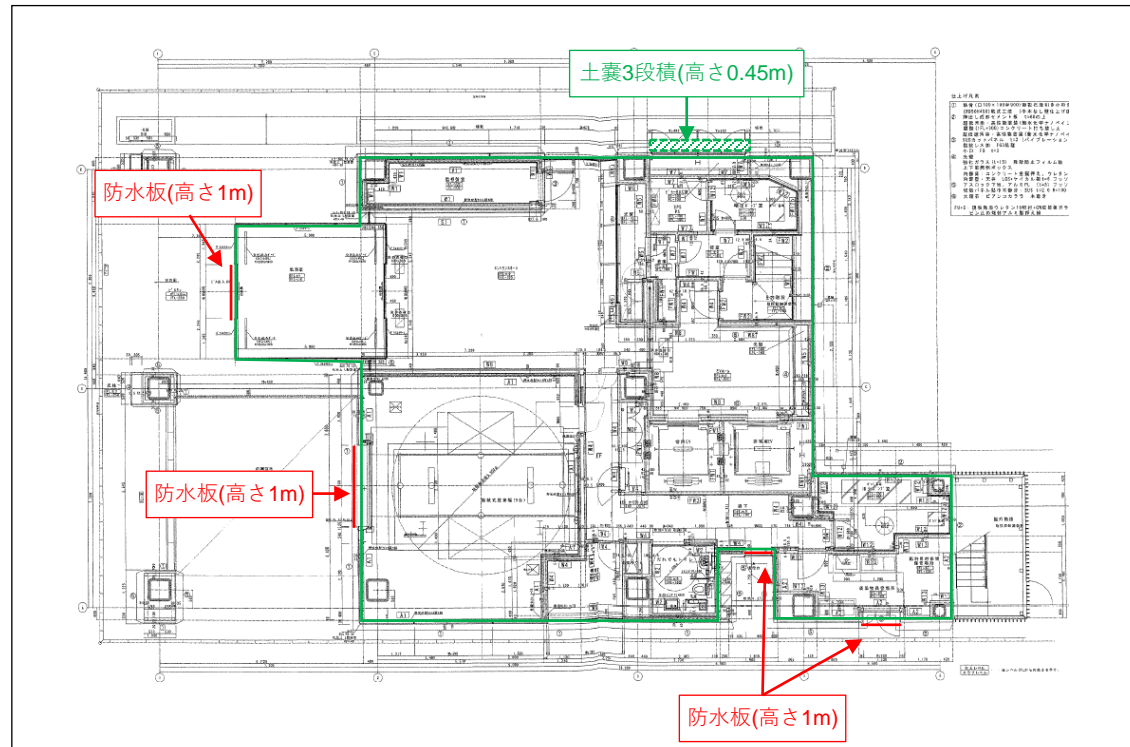
※この地理院地図の画像も提出  
(ファイル形式は問わず)



# B: 水防ライン、浸水位及び開口部の図示方法

## (1) 1階平面図に図示するもの

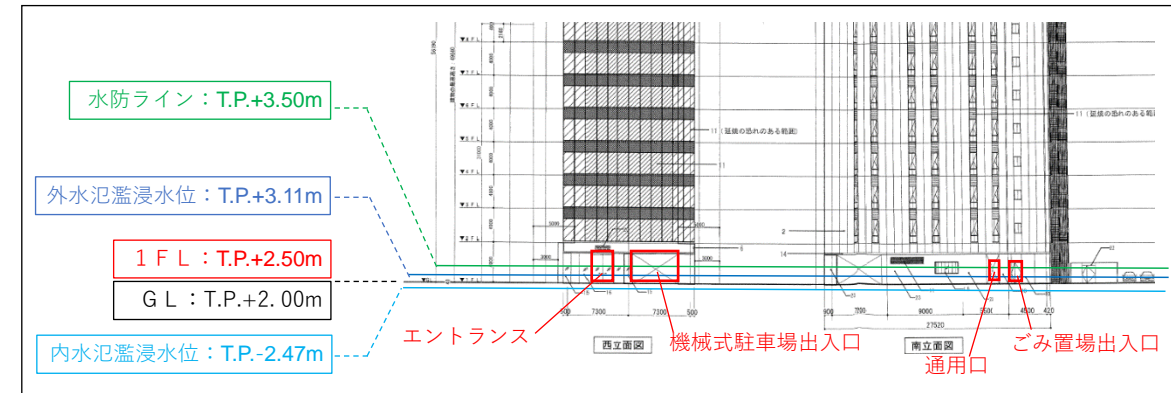
- ✓ 水防ライン…緑色実線
- ✓ 防水板…赤色実線
- ✓ 土嚢又は水嚢…緑色破線のハッチング



注：水防ラインがない場合は未記入

## (2) 断面図又は立面図に図示するもの(T.P.を記載)

- ✓ 水防ラインの高さ…緑色実線
- ✓ 最も低い開口部の外形…赤色実線
- ✓ 外水・内水氾濫に係る想定浸水位…異なる線色実線



最も低い開口部の下端とGLの標高との差を間5②に記入  
 $2.50(1FL) - 2.00(GL) = 0.50m$

※左右の各図面を提出



# お問い合わせ

資料に関するお問い合わせは、下記のメールアドレスまで  
ご連絡下さい。

Mail: [info@resreal.jp](mailto:info@resreal.jp)